

小樽バイン

- 物件名：小樽バイン
- 住所：色内1-8-6
- 電話：24-2800
- 所有者：北海道中央バス株式会社
- 運営：北海道中央バス株式会社 浜田隆文(店長)
22人

- 建物履歴：
 - 明治45年 北海道銀行本店として創建
 - 昭和40年 北海道中央バス株式会社本社として所有
 - 昭和60年 小樽市歴史的建造物指定
 - 平成8年 北海道中央バスの投資により1階部分を小樽バインとして開店

※北海道銀行

- 明治27年 余市銀行
- 明治31年 余市銀行は小樽銀行に改称
- 明治39年 小樽銀行は北海道銀行に改称
- 明治45年 北海道銀行本店として新築
- 昭和19年 戦時下の統制経済「一県一行」で北海道拓殖銀行に合併

<『小樽の銀行小史』>

■外観

- ①建築様式
イタリアのルネサンス様式。アーチを描く窓や玄関周りの石積みが特徴。外観は創建時の姿を維持。
- ②防火
屋根葺きの下地にコンクリートを打ち防火対応。

■内観

- ①壁／札幌軟石の壁
- ②腰壁／美濃産大理石の腰壁
- ③敷石／イギリス産ブラックアスファルトの敷石
- ④ロビー部分／木を基調とした親しみやすいインテリアのパーティースペース（銀行時代はロビー部分）には、明治の頃の歴史が滲む。
- ⑤金庫室／ワインセラーとして再利用。

■内容

- ①店名
店名「バイン」はBUSとBANKのB、WINEとの造語。
- ②バス会社の投資
中央バスがこの建物の再活用を検討する中で、市民にも愛される観光施設という方針が生まれ、提供素材を地元小樽で製造される「ワイン」に設定。外見の重厚さのわりには、リーズナブルな価格設定で、お客様は驚き、ファンが増えている。
- ③カフェ感覚のレストラン
レストランではなくカフェというお洒落な空間で珈琲感覚の価格でワインや食事を楽しめる新たなビジネスモデルを発信。

■コンセプト

小樽を代表する歴史的建造物であることから誇りを持てる対応を徹底。

■客層

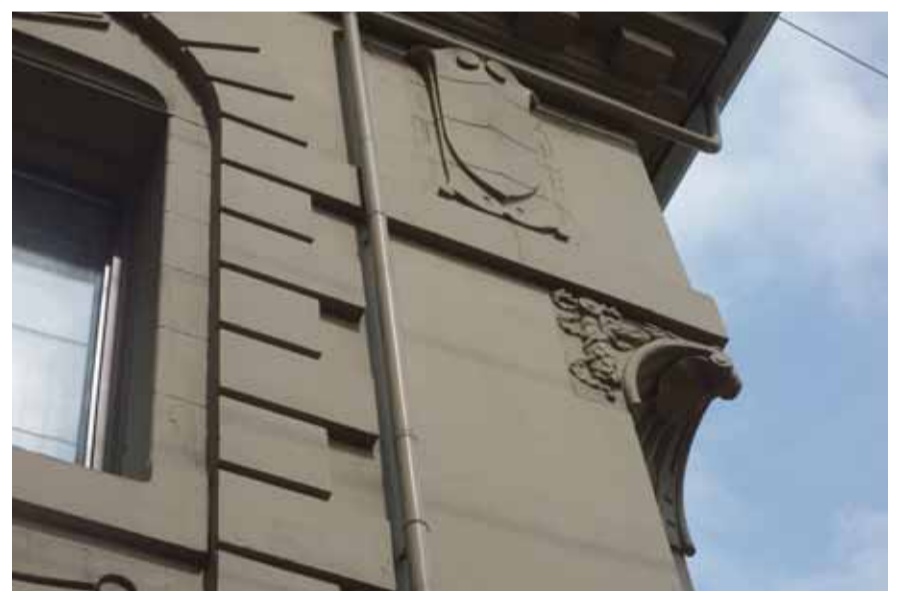
観光客70%（うち外国人10%）、地元客30%



外観



イタリアのルネサンス様式彫刻



ここにもフクロウの意匠が

小樽バイン



玄関周りの石積み



重厚な店内



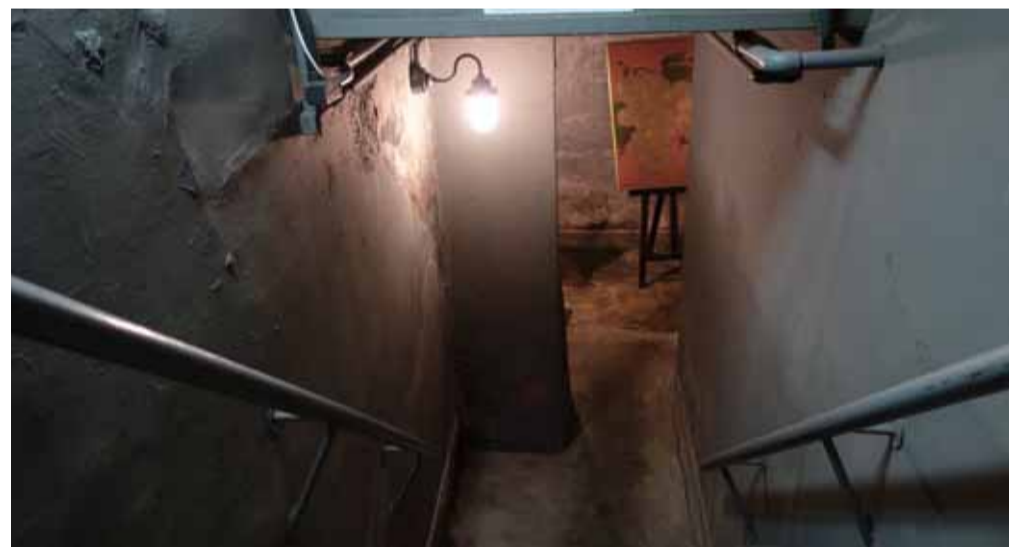
壁・腰壁・敷石の石材コーディネート



ワイン樽のディスプレイ



ワインショップ店内



金庫室のワインセラーへの階段



旧金庫室がワインセラーに



開かずの扉（金庫）